

事務事業評価の評価結果について（平成27年度の事業に対する評価）

安濃総合支所

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成27年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成28年度以降の事業の方向性	所見
地域振興課	地域かがやきプログラム事業（安濃総合支所）	【北部エリアの事業目的】 都市と地域の住民が共に自然とふれあい、憩い、学び、楽しむ機会を増大させることによって、都市や自然と共存する、健康で活力あるふれあいの里づくりをめざします。	参加者数	自然とのふれあい、健康増進、森林の保全、郷土文化の継承、地域住民の健康、体位の向上と活性化や交流を図る等の目標から、参加人数を指標とします。	11,050人	9,602人		経ヶ峰ハイキング事業、安濃ふれあいまちづくり事業については、参加者が少し目標値に達しなかったが、全体的に多数の参加がありました。	3	全体的にたくさんの参加者があり、おおむね目的を達成できました。	現状維持	当初の目標どおり事業を実施し、おおむね目的を達成できたので、事業の内容等を検討しながら今後も継続していきます。
地域振興課	地域インフラ維持事業（安濃総合支所）	住民生活に密着した地域要望等に即答・即応するために、地域住民との協働を果たすことが出来るように事業を推進します。 道路、河川、公園及び交通安全施策等、地域インフラの維持修繕に関し、総合支所長の権限でフレキシブルに即時対応を図ります。	要望対応率	市が所有し管理している道路、交通安全施設等、河川、公園の維持・補修（委託料及び施設修繕料に係る要望）に対する要望率を指標とする。	80%	80%		地域の要望に関する維持管理等について、概ね早急に対応できました。	3	地域の要望に対し概ね早急な対応ができていると想われます。なお、未処理の要望については、緊急性を考慮し早期に対応できるよう努めます。	拡充・充実	自治会等の要望に対して概ね解決できたが、なお少しでも多く対応できるよう努力します。
地域振興課	地域インフラ補修事業（安濃総合支所）	地域インフラ維持事業と共に、身近な地域の課題や要望の早期解決を図るため、独自の予算措置により地域へ原材料の支給等、公共施設等の簡易な補修、修繕を行い、地域に密着した対応を図ります。	要望対応率	道路、交通安全施設等、河川、公園の補修に係る原材料の購入。また、職員が原材料を使って対応できる軽易な修繕・補修で、緊急・応急に対応する要望率を指標とします。	80%	80%		要望等について、概ね迅速に対応できた。	4	地域からの要望による原材料の支給及び公共施設の簡易な修繕、補修等迅速に対応しました。	拡充・充実	昨年度より一層に迅速な対応が出来るよう努力します。
地域振興課	地域情報発信事業	地域振興に係る住民活動に対し、情報提供を行うなどの支援、地域住民と連携した地域振興の推進	地域だよりの発行回数	地域の情報を住民に知らせることを目的に発行している地域だより「安濃だより」の発行回数を指標とします。	4回	4回		目標どおり年4回の地域だよりを発行できました。	3	当初の目標どおり、年4回の地域だよりを発行し、地域情報を住民の方に知らせることができました。	拡充・充実	今後も、地域だよりの内容等検討しながら、地域だより「安濃だより」を充実できるよう努めていきます。
安濃・地域振興課	サンヒルズ安濃管理運営事業	サンヒルズ安濃は、ハーモニーホール・福祉センター・交流館・保健センター・図書館、からなる複合施設で、複合化の利点を生かした地域の環境、交流を創出する機能を備えており、住民の文化教養の向上を図り、福祉の増進に寄与する。	ハーモニーホールの利用者数	文化教養の向上のため、ハーモニーホールの利用者数を指標とします。	12,000人	12,889人		広報及び使用許可申請時等において、施設のPRに努めた結果、ハーモニーホールの利用者は、一昨年には及ばなかったものの、前年度に比べ増加となり、数値目標には達しています。	3	施設運営管理等の効率化とPRに努め、利用者数は当初の数値目標は達成しています。	拡充・充実	今後も目標を達成できるよう、引き続き事業を行い一層のPR及び施設の効率化を行います。また、平成8年に完成した当該施設は、経年劣化による施設修繕が多く、このため平成28年度からは雨漏りの防水修繕工事を進めると共に、設備及び舞台の改修についても、指定管理者導入も含め今後の市内文化ホールのあり方等について、関係部局と検討・調整を図り、施設修繕を計画的に推進していきます。

安濃総合支所

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成27年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成28年度以降の事業の方向性	所見
安濃・地域振興課	安濃交流会館管理運営事業	住民の健康増進、福祉の向上及び歴史的文化の継承並びに地域の活性化を図るとともに、住民の交流を促進する。	施設利用者数	健康増進、福祉向上等のために、利用者数を指標とします。	46,000人	47,798人		(あおう温泉) 開館日数は304日であり、温浴施設利用のPR等を行い集客に努めた結果、利用者は横ばいでした。1日平均利用者数が155人であり、利用者の口コミ等により利用者増加維持を図ります。	4	年度によって利用者の増減はあるが、今年度は目標値に近い数字でほぼ当初の目標を達成できたと思っているが、施設運営等の効率化を図り、PR活動等にも積極的に取り組むことができました。	現状維持	目標は達成されている。引き続き事業を行い施設運営等の効率化及びPRを図っていきます。
安濃・地域振興課	体育館管理運営事業(安濃総合支所)	スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的とした交流の機会づくりを推進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。合併以前から三重県中勢地域のスポーツ施設(体育館)の中心的な役割を果たし、合併後においては新津市のスポーツ施設(体育館)の中心的な役割を担っており、今後においても更なるスポーツの中心的な施設として需要が見込まれるため、日ごろの安全配慮義務を怠らないよう安全管理運営に努めていく。	利用者数	市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりのため利用者数を指標とします。	60,000人	112,758人		一定の目標は達成され、効率化を図ることができた。	4	平成26年度は体育館天井工事により8～1月の期間、体育館の貸館利用が休止となり利用者数の大幅増加とはならなかったが、平成27年度は前年に比べ8,000人の増加となり、当初の目標は達成され、施設運営等の効率化を図ることができました。	拡充・充実	目標達成ができるよう引き続き事業を行い、インターハイ・国体等に向けた計画も含み、施設運営について効率化を行っていきます。
安濃・地域振興課	文化振興事業(安濃総合支所)	住民が気軽に参加できる文化祭を目指して、安濃町内で文化祭を開催し文化活動を進め、文化芸術活動の充実に努めます。(文化振興計画1-1-1)	参加者数	町文化祭に多くの住民が参加することより、文化、芸術に対する文化振興の向上が図られるため、参加者数を指標とします。	1000人	約1,000人		実行委員会制度により、住民に密着した内容が計画でき、またコスト削減も図られました。	3	更に参加者の増加を目指し、計画及び実施内容や周知方法の充実を図るよう指導・提案を行います。	拡充・充実	H27年度から実行委員会が主体となり、安濃町芸術文化協会の協力を得て、自治会や学校等にも協力を要請し、更に住民が参加しやすい環境を整え、参加者の増大を目指します。
安濃・地域振興課	獣害対策事業(安濃総合支所)	野生鳥獣による農林産物への被害を抑制し、農業者の収入や生産意欲を守るため、野生鳥獣の個体数の調整、防護柵の設置、地域ぐるみの獣害対策への支援を行い、獣害対策の取組の推進を図ります。	総合的な獣害対策の取組の推進	個体数調整・防護柵の設置・地域ぐるみでの取組の支援を対策の基本としつつ、獣害対策の高度化の推進を図ります。			個体数調整・防護柵の設置・地域ぐるみでの取組の支援による着実な獣害被害の抑制	個体数調整において、捕獲頭数の実績増。	3	有害鳥獣の捕獲数については年々増加してきており、地域での取り組みについても、各地域性に沿った獣害対策の浸透が見受けられる。防護柵の設置等により、野生鳥獣による農林産物への被害の抑制を図っているが、野生鳥獣の個体数の調整という点から、現在は猟友会の協力を得ているものの、当該会員の高齢化に伴い、今後の後継者の確保が必要と考えます。	拡充・充実	鳥獣被害としては増加傾向にあり、平成28年度以降も引き続き獣害対策を行っていく必要がある。対策内容としては、引き続き「個体数調整」、「防護柵の推進」、「地域ぐるみでの取り組み」の3本の柱を中心に、先進的なものも取り入れながら、鳥獣被害の低減を図っていきます。
安濃・地域振興課	観光施設等維持管理事業(安濃総合支所)	経ヶ峰、長谷山の山並みが形成する豊かな自然を財産としながら、施設修繕及び登山道の安全利用のために維持管理を継続し、自然とのふれあいの場を充実します。	登山者数	利用者から苦情がない施設の維持管理に努めることによりリピーターを増やしていきます。	12,500人	12,300人	登山者の要望に応えられるような施設の維持管理を図る。	施設修繕等を実施して維持管理をしていることにより、登山者数の達成に努めていきます。	3	施設整備を実施し、登山道及び駐車場整備が図られ、次なる目標値の達成に努めていきます。	現状維持	施設整備及び登山道の整備を行い、安全に使うために維持管理を継続し、リピーターを増やしていきます。